

令和2年国勢調査結果速報

令和2年国勢調査（令和2年10月1日実施）の結果について、総務省統計局による速報値の公表に先立ち、川崎市独自集計による速報値がまとまりました。国勢調査は、日本に住んでいる全ての人を対象に人口、世帯構成などを把握するために行われる統計調査で、大正9（1920）年から5年毎に行われており、今回が21回目の調査となります。

- 人口は1,539,081人（過去最多）
前回調査（平成27年）より63,868人（4.3%）増加
- 世帯数は746,866世帯（過去最多）
前回調査より55,029世帯（8.0%）増加
- 区別では中原区が人口総数、人口増加率、人口密度で7区中1位
- 性比101.7は過去最低（前回調査103.1）
- 人口密度10,662人/k㎡は過去最高（前回調査10,220人/k㎡）
- 1世帯当たり人員は2.06人で過去最少（前回調査2.13人）

世帯数・人口の概況 ～人口と世帯数ともに増加し、いずれも過去最多～

人口は平成27（2015）年から令和2（2020）年の5年間に63,868人（4.3%）増加して1,539,081人、世帯数は55,029世帯（8.0%）増加して746,866世帯となりました。人口と世帯数ともに戦後一貫して増加を続け、いずれも過去最多となりました。

●人口

区別	令和2年			平成27年			増加数	増加率(%)
	総数	男	女	総数	男	女		
全市	1,539,081	775,849	763,232	1,475,213	749,038	726,175	63,868	4.3
川崎区	233,228	125,182	108,046	223,378	119,422	103,956	9,850	4.4
幸区	171,188	86,703	84,485	160,890	81,231	79,659	10,298	6.4
中原区	263,785	133,902	129,883	247,529	126,992	120,537	16,256	6.6
高津区	234,342	116,321	118,021	228,141	115,030	113,111	6,201	2.7
宮前区	233,796	113,359	120,437	225,594	110,813	114,781	8,202	3.6
多摩区	221,853	112,909	108,944	214,158	110,059	104,099	7,695	3.6
麻生区	180,889	87,473	93,416	175,523	85,491	90,032	5,366	3.1

●世帯数

区別	令和2年	平成27年	増加数	増加率(%)
全市	746,866	691,837	55,029	8.0
川崎区	123,599	109,768	13,831	12.6
幸区	79,953	75,160	4,793	6.4
中原区	134,751	123,547	11,204	9.1
高津区	113,652	107,931	5,721	5.3
宮前区	102,235	94,808	7,427	7.8
多摩区	113,324	106,472	6,852	6.4
麻生区	79,352	74,151	5,201	7.0

ご協力ありがとうございました！



（注）この速報値は川崎市が独自に集計したものであり、総務省が公表する速報値とは異なる場合があります。

国勢調査2020



人口総数 ～増加率は 4.3%増とプラスで推移、

人口総数は第 1 回調査(大正 9 年)の約 18.1 倍に～

人口の増加率は 4.3%増となりました。日本全体では人口減少社会に転じている中で、本市では出生数は減少傾向にあるものの自然増が続き、さらに転入超過による社会増の傾向も続いているため、本市の人口増減は引き続きプラスで推移しています。増加率がマイナスとなったのは、終戦直後の国勢調査(昭和 22 年)のみです。

また、第 1 回調査(大正 9 年)の人口 85,189 人と比べると、約 18.1 倍に増加しました。(図 1、表 1)

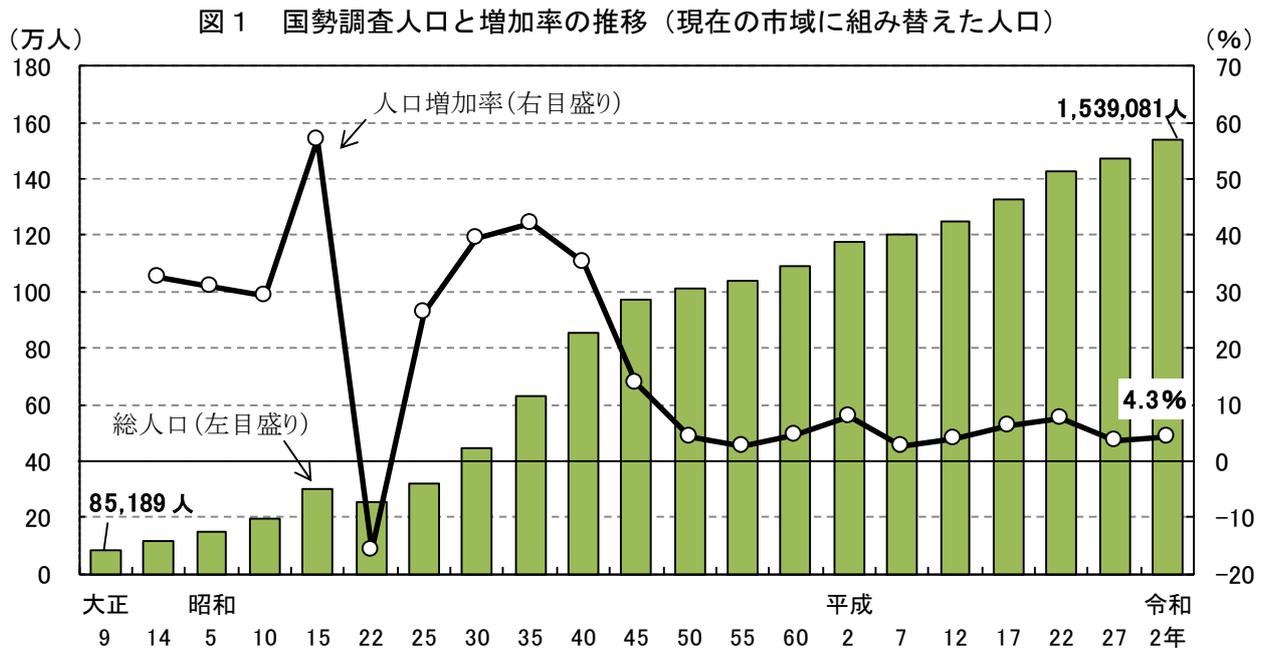


表 1 国勢調査人口の推移

実施年	回	世帯数	人口			人口増加数	人口増加率 (%)	性比 (女100 に対する男)	指数 (大正9年 =100)
			総数	男	女				
大正 9(1920)年	第 1 回	16,279	85,189	43,454	41,735	-	-	104.1	100.0
14(1925)年	第 2 回	22,465	113,034	58,180	54,854	27,845	32.7	106.1	132.7
昭和 5(1930)年	第 3 回	30,190	148,165	76,483	71,682	35,131	31.1	106.7	173.9
10(1935)年	第 4 回	37,218	191,700	99,820	91,880	43,535	29.4	108.6	225.0
15(1940)年	第 5 回	58,087	300,979	165,673	135,306	109,279	57.0	122.4	353.3
22(1947)年	第 6 回	53,109	252,923	133,714	119,209	△ 48,056	△ 16.0	112.2	296.9
25(1950)年	第 7 回	69,195	319,226	166,023	153,203	66,303	26.2	108.4	374.7
30(1955)年	第 8 回	98,755	445,520	231,894	213,626	126,294	39.6	108.6	523.0
35(1960)年	第 9 回	159,051	632,975	334,490	298,485	187,455	42.1	112.1	743.0
40(1965)年	第10回	235,791	854,866	451,537	403,329	221,891	35.1	112.0	1,003.5
45(1970)年	第11回	289,959	973,486	511,073	462,413	118,620	13.9	110.5	1,142.7
50(1975)年	第12回	326,203	1,014,951	532,890	482,061	41,465	4.3	110.5	1,191.4
55(1980)年	第13回	377,397	1,040,802	543,269	497,533	25,851	2.5	109.2	1,221.8
60(1985)年	第14回	404,762	1,088,624	569,061	519,563	47,822	4.6	109.5	1,277.9
平成 2(1990)年	第15回	466,084	1,173,603	617,425	556,178	84,979	7.8	111.0	1,377.6
7(1995)年	第16回	503,711	1,202,820	629,804	573,016	29,217	2.5	109.9	1,411.9
12(2000)年	第17回	543,088	1,249,905	649,997	599,908	47,085	3.9	108.3	1,467.2
17(2005)年	第18回	595,513	1,327,011	687,080	639,931	77,106	6.2	107.4	1,557.7
22(2010)年	第19回	662,694	1,425,512	728,525	696,987	98,501	7.4	104.5	1,673.4
27(2015)年	第20回	691,837	1,475,213	749,038	726,175	49,701	3.5	103.1	1,731.7
令和 2(2020)年	第21回	746,866	1,539,081	775,849	763,232	63,868	4.3	101.7	1,806.7

(注1) 現在の市域に組み替えた人口です。

(注2) 昭和5年の世帯数は、戸籍(12月末日現在)によります。

各区の人口 ～全ての区で人口が増加、増加率トップは中原区の6.6%増～

人口を区別で見ると、中原区が263,785人で最も多く、幸区が171,188人で最も少なくなっています。

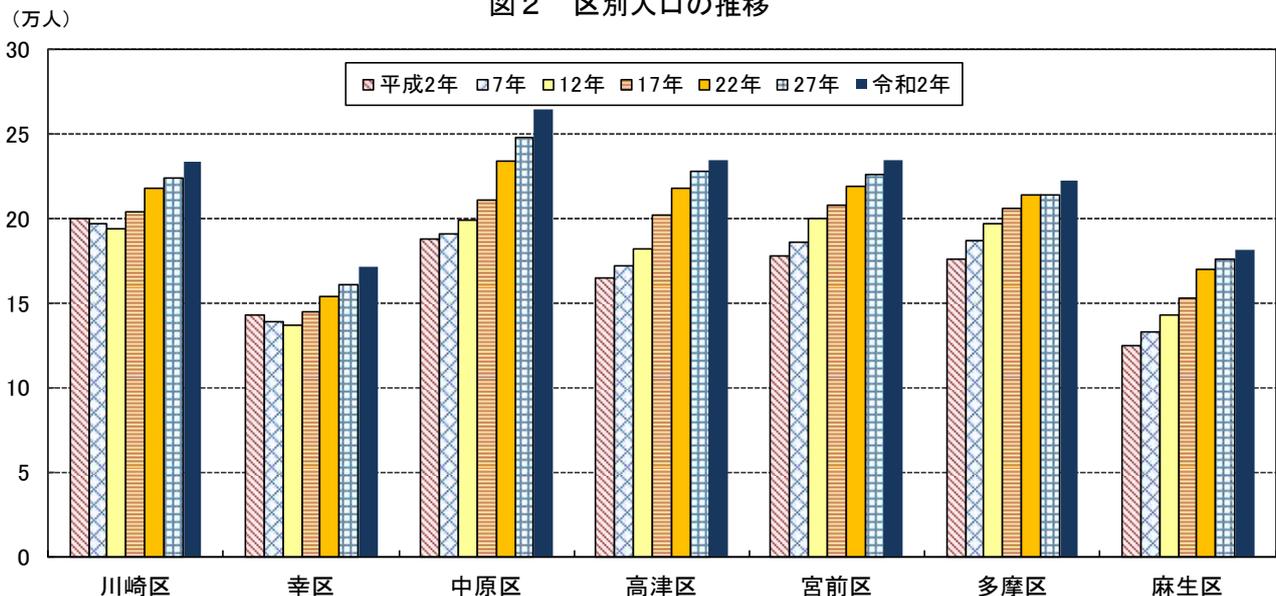
平成17年調査以降、市内の全ての区で人口が増加しています。人口増加率が最も高い区は中原区の6.6%（16,256人）増で、幸区の6.4%（10,298人）増、川崎区の4.4%（9,850人）増と続き、高津区が最も低く2.7%（6,201人）増となりました。

中原区は、武蔵小杉駅周辺の再開発などのため、堅調な人口増加が続いており、前々回調査（平成22年）から増加数、増加率ともにトップが続いています。（図2、表2）

表2 区別人口の推移

年次	全市	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
人 口 総 数 (人)								
平成2年	1,173,603	200,056	142,320	187,707	165,081	177,742	175,570	125,127
7年	1,202,820	196,338	139,134	190,385	172,196	185,485	187,042	132,240
12年	1,249,905	194,091	136,487	198,300	182,112	200,040	196,637	142,238
17年	1,327,011	203,804	144,487	210,543	201,792	207,895	205,389	153,101
22年	1,425,512	217,328	154,212	233,925	217,360	218,867	213,894	169,926
27年	1,475,213	223,378	160,890	247,529	228,141	225,594	214,158	175,523
令和2年	1,539,081	233,228	171,188	263,785	234,342	233,796	221,853	180,889
増 加 数 (人)								
平成7年	29,217	△3,718	△3,186	2,678	7,115	7,743	11,472	7,113
12年	47,085	△2,247	△2,647	7,915	9,916	14,555	9,595	9,998
17年	77,106	9,713	8,000	12,243	19,680	7,855	8,752	10,863
22年	98,501	13,524	9,725	23,382	15,568	10,972	8,505	16,825
27年	49,701	6,050	6,678	13,604	10,781	6,727	264	5,597
令和2年	63,868	9,850	10,298	16,256	6,201	8,202	7,695	5,366
増 加 率 (%)								
平成7年	2.5	△1.9	△2.2	1.4	4.3	4.4	6.5	5.7
12年	3.9	△1.1	△1.9	4.2	5.8	7.8	5.1	7.6
17年	6.2	5.0	5.9	6.2	10.8	3.9	4.5	7.6
22年	7.4	6.6	6.7	11.1	7.7	5.3	4.1	11.0
27年	3.5	2.8	4.3	5.8	5.0	3.1	0.1	3.3
令和2年	4.3	4.4	6.4	6.6	2.7	3.6	3.6	3.1

図2 区別人口の推移



性比(女性 100 人に対する男性の数) ~101.7 は過去最低、 区別では川崎区(115.9)が最も高く、麻生区(93.6)が最も低い~

男女別人口を見ると、男性が女性より 12,617 人多く、性比は 101.7 となり、調査開始(大正 9 年)以降、最も低くなりました。男性人口が女性人口を上回っている点は本市の特徴の一つですが、平成 7 年以降、男女人口の差は縮小傾向にあります。(表 1)

区別に見ると、最も高い川崎区(115.9)を含む 4 区で男性人口の方が多く、女性人口の方が多い 3 区のうち麻生区(93.6)が最も低くなりました。(表 3)

表 3 男女別人口と人口密度の推移

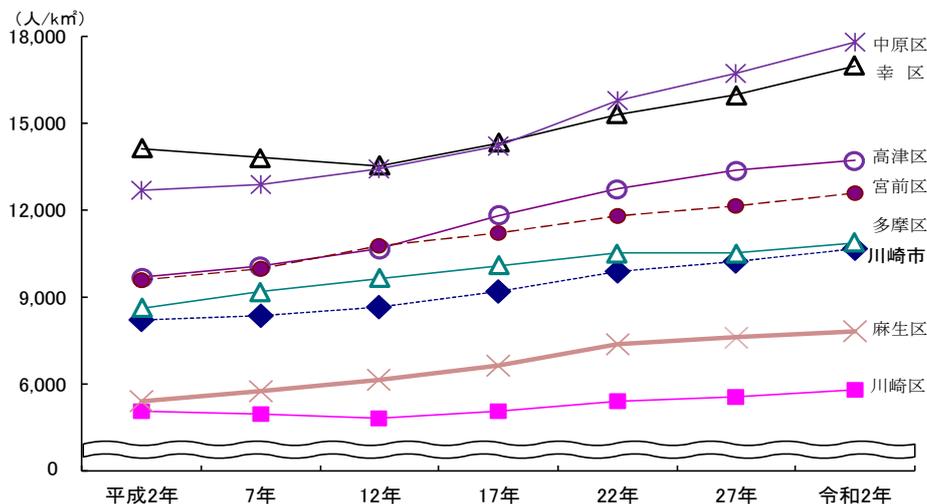
年次 区別	総数	男		女		性比 (女100に 対する男)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
			増加率 (%)		増加率 (%)			
平成 2年	1,173,603	617,425	8.5	556,178	7.0	111.0	143.47	8,180
7年	1,202,820	629,804	2.0	573,016	3.0	109.9	143.87	8,360
12年	1,249,905	649,997	3.2	599,908	4.7	108.3	144.35	8,659
17年	1,327,011	687,080	5.7	639,931	6.7	107.4	144.35	9,193
22年	1,425,512	728,525	6.0	696,987	8.9	104.5	144.35	9,875
27年	1,475,213	749,038	2.8	726,175	4.2	103.1	144.35	10,220
令和 2年	1,539,081	775,849	3.6	763,232	5.1	101.7	144.35	10,662
川崎区	233,228	125,182	4.8	108,046	3.9	115.9	40.25	5,794
幸 区	171,188	86,703	6.7	84,485	6.1	102.6	10.09	16,966
中原区	263,785	133,902	5.4	129,883	7.8	103.1	14.81	17,811
高津区	234,342	116,321	1.1	118,021	4.3	98.6	17.10	13,704
宮前区	233,796	113,359	2.3	120,437	4.9	94.1	18.60	12,570
多摩区	221,853	112,909	2.6	108,944	4.7	103.6	20.39	10,880
麻生区	180,889	87,473	2.3	93,416	3.8	93.6	23.11	7,827

(注) 面積は川崎市公表数値のため、総務省公表数値とは一致しません。

人口密度 ~10,662 人/km²は過去最高、区別では中原区が最も高い~

本市の人口密度は 10,662 人/km²となり、前回調査に引き続き 1 万人を超え、過去最高となりました。区別では中原区(17,811 人/km²)が最も高く、臨海部を抱え人口密度の最も低い川崎区(5,794 人/km²)の約 3.1 倍となっています。(図 3、表 3)

図 3 人口密度の推移





世帯数 ～世帯数は過去最多、1世帯当たり人員は2.06人で過去最少～

世帯数は746,866世帯で、前回調査と比べ55,029世帯(8.0%)増加しました。

世帯の増加率が人口の増加率を上回り、世帯規模(1世帯当たり人員)は2.06人となっています。前回調査に比べ0.07人減少し過去最少となり、世帯の小規模化が進みました。

区別にみると、全ての区で世帯数が増加したほか、幸区を除く6区で、1世帯当たり人員が減少しました。1世帯当たり人員は、宮前区(2.29人)が最も多く、最も少ない川崎区(1.89人)をはじめ、中原区、多摩区(1.96人)の3区で2人未満となっています。(図4、表4)

図4 世帯数と1世帯当たり人員の推移(現在の市域に組み替えた世帯数)

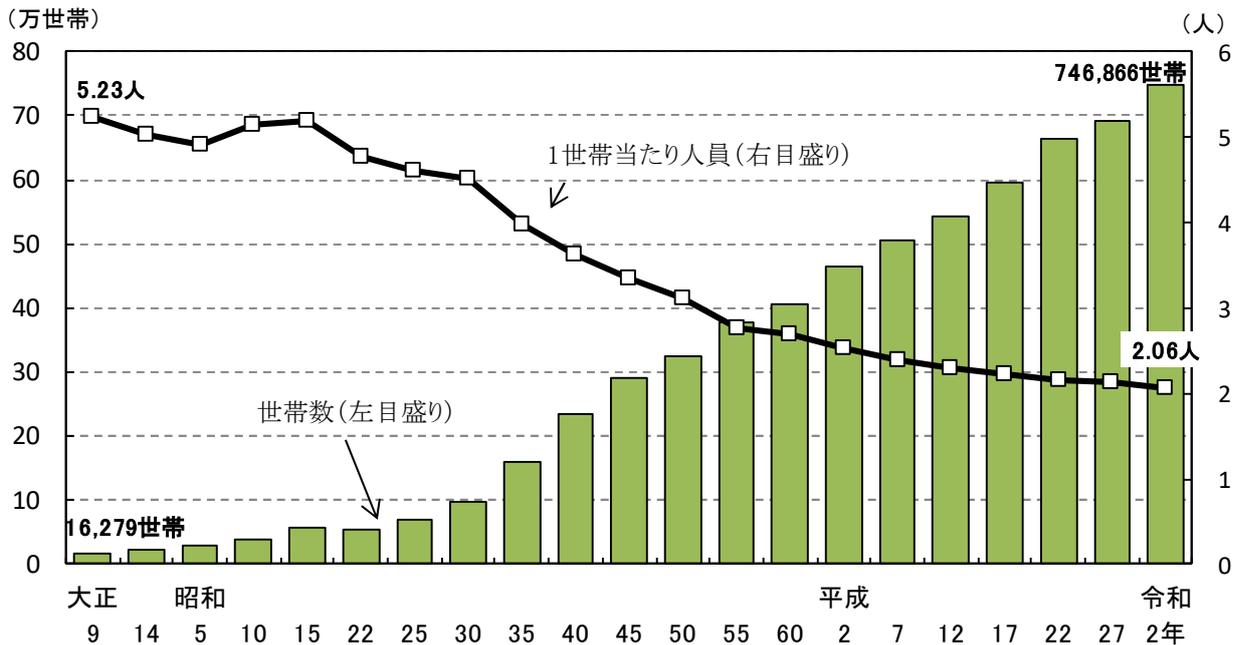


表4 区別世帯数と1世帯当たり人員

区別	令和2年		平成27年		増加数	増加率 (%)
	世帯数	1世帯当たり人員	世帯数	1世帯当たり人員		
全市	746,866	2.06	691,837	2.13	55,029	8.0
川崎区	123,599	1.89	109,768	2.04	13,831	12.6
幸区	79,953	2.14	75,160	2.14	4,793	6.4
中原区	134,751	1.96	123,547	2.00	11,204	9.1
高津区	113,652	2.06	107,931	2.11	5,721	5.3
宮前区	102,235	2.29	94,808	2.38	7,427	7.8
多摩区	113,324	1.96	106,472	2.01	6,852	6.4
麻生区	79,352	2.28	74,151	2.37	5,201	7.0

■利用上の注意■

- この「令和2年国勢調査結果速報」は、総務省統計局の承認を受けて、川崎市が独自に要計表（調査単位区ごとに人口・世帯数を集計した表）による人口・世帯数を集計したものです。令和3年6月に総務省統計局が公表する速報値とは異なる場合があります。
- 確報値は、総務省統計局から令和3年11月に公表予定です。
- 本文及び図表中の表章未満の数値は、四捨五入を原則としています。

令和3(2021)年5月発行 問合せ先 総務企画局情報管理部統計情報課 T E L 044(200)2068 F A X 044(200)3799	 川崎市
---	--

【参考】令和2年国勢調査の集計体系及び結果の公表・提供等一覧(総務省統計局)

集計区分		集計内容	産業分類	職業分類	集計対象	表章地域	全国結果の公表予定	結果の公表及び提供の方法
速報集計	人口速報集計 (要計表による人口集計)	男女別人口及び世帯数の早期提供	-	-	全数	全国、都道府県、市区町村	令和3年6月	インターネットを利用する方法等によって公表。人口は公表日に官報に公示。
基本集計	人口等基本集計	人口、世帯、住居に関する結果及び外国人、高齢者世帯、母子・父子世帯、親子の同居等に関する結果	-	-	全数	全国、都道府県、市区町村	令和3年11月	全都道府県一括でインターネットを利用する方法等によって公表。おいて、報告書を刊行。人口等基本集計の人口及び世帯数(確定人口・世帯数)は公表後に官報に公示。
	就業状態等基本集計	人口の労働力状態、夫婦、子供のいる世帯等の産業・職業大分類構成に関する結果	大分類	大分類	全数		令和4年5月	全都道府県一括でインターネットを利用する方法等によって公表。おいて、報告書を刊行。
抽出詳細集計		就業者の産業・職業小分類構成等に関する詳細な結果	小分類	小分類	抽出	全国、都道府県、市区町村	令和4年12月	全都道府県一括でインターネットを利用する方法等によって公表。おいて、報告書を刊行。
従業地・通学地集計	従業地・通学地による人口・就業状態等集計	従業地・通学地による人口の基本的構成及び就業者の産業・職業大分類構成に関する結果	大分類	大分類	全数	全国、都道府県、市区町村	令和4年7月	集計が完了した後、インターネットを利用する方法等によって公表。おいて、報告書を刊行。
人口移動集計	移動人口の男女・年齢等集計	人口の転出入状況に関する結果	-	-	全数	全国、都道府県、市区町村	令和4年2月	集計が完了した後、インターネットを利用する方法等によって公表。おいて、報告書を刊行。
	移動人口の就業状態等集計	移動人口の労働力状態、産業・職業大分類構成に関する結果	大分類	大分類	全数		令和4年8月	
小地域集計	人口等基本集計に関する集計	人口、世帯、住居に関する基本的な事項の結果	-	-	全数	町丁・字等、基本単位区、地域メッシュ	該当する基本集計等の公表後に集計し、地理データ等を活用して秘匿処理を施した上で、速やかに公表。	集計が完了した後、インターネットを利用する方法等によって公表。
	就業状態等基本集計に関する集計	人口の労働力状態及び就業者の産業・職業大分類構成に関する基本的な事項の結果	大分類	大分類				
	従業地・通学地による人口・就業状態等集計に関する集計	常住地による従業地・通学地に関する基本的な事項の結果	-	-				
	移動人口の男女・年齢等集計に関する集計	5年前の常住地に関する基本的な事項の結果	-	-				

1) 「産業分類」及び「職業分類」欄は、該当する分類を用いた集計結果があることを示す。

2) 「表章地域」欄は、該当集計区分で集計する地域を表しているが、必ずしもすべての統計表がその地域まで集計されるわけではない。